

と畜検査について【豚内臓検査編】

前回は「と畜検査」の概要について説明いたしましたが、今回はと畜検査の一部である「豚の内臓検査」をテーマとして取り上げたいと思います。

【豚の内臓検査とは？】

豚の内臓は、豚をと殺した後に体から取り出され、各臓器に病気がないか、食用可能かどうか等、内臓の状態について、と畜検査員が1頭ずつ視診、触診等で異常の有無を検査します。

外観だけではわからないところは、必要に応じてナイフで切開し、臓器やリンパ節の内部を確認します。

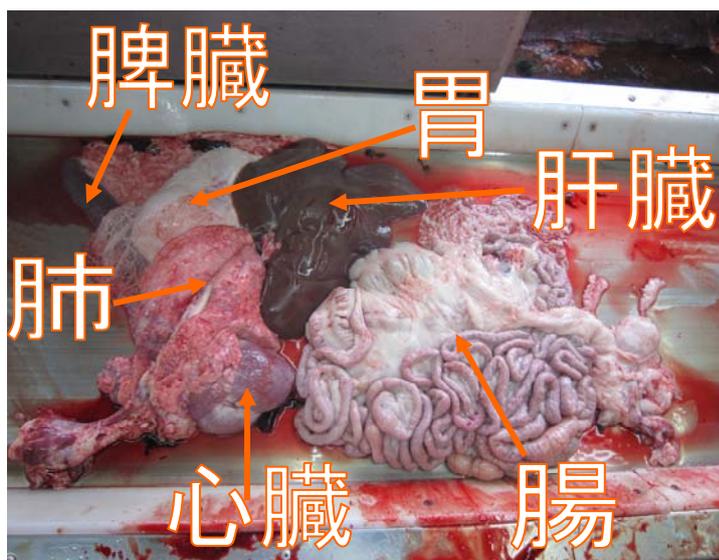
この検査で、と畜検査員が「食用不適」とした異常な内臓は廃棄され、特定の病気の疑いがあった場合については、その内臓を含め、豚1頭分を丸ごとを一時保留し、精密検査を実施します。

精密検査の結果によっては、豚の全てが廃棄となることもあります。



【検査する部位について】

心臓、肝臓、腸、肺、胃、脾臓、膀胱等がありますが、精密検査を要する疾病の病変が表れやすい部位である心臓、肝臓、腸については、特に重点的に検査します。



【例】

○肝臓の表面の膜が癒着しているけど、他の臓器は大丈夫だ。
⇒肝臓のみを廃棄し、他の内臓は合格！

○心臓の内側にイボのような異常なできものが！
⇒心内膜炎の発症だけでなく、**敗血症***の可能性あり！
精密検査で合否判定！

大まかな説明ではありますが、安全な食肉を提供するために、豚の内臓はこのように日々検査されています。

○**敗血症***については、こちらも御参照ください。

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000089/89799/ushi_No3.pdf